

ふるさと鼓舞 それぞれの思い発表

2月13日に田川広域観光協会主催「TAGAWAまちづくりフォーラム」が田川文化センターで行われました。協会の部長や町職員など、観光を通して地域活性化に取り組む人たちが実績などを発表し、福智町はスイーツ大茶会について報告。基調講演では福智町観光大使のIKKOさんが田川活性化への思いを語り、歌を交えた講演で約800人の来場者を盛り上げました。



↑ステージ上で熱唱しながらファンの握手に応じる、町観光大使のIKKOさん。

↓初めてスキーをする参加者でも楽しめるよう、板の履きかたから優しくレッスン。



**福智町「冬季少年のバス」
白銀のキャンパスに思い出の軌跡描く**

青少年育成町民会議主催の「冬季少年のバス」が、1月23日から2泊3日の日程で広島県安芸太田町の恐羅漢スノーパークで行われました。参加した町内の小中学生25人は、最初は慣れないスキーに苦戦したものの、教室で指導を受けメキメキと上達。最終日にはゲレンデに見事なシュプールを描けるようになり、成長した仲間たちと一緒に充実した3日間を過ごしました。

**第8回福智町子ども会フットサル大会
チーム全員一致団結しキック&ダッシュ**

2月8日に金田体育館で、子ども会育成連絡協議会主催のフットサル大会が行われました。フットサルは5人1チームで行うサッカーに似た屋内競技で、今大会には小学生16チーム94人が参加。優勝目指してチームワークを発揮し、コート内を駆け回った選手たちは、さわやかな汗を流しました。【優勝】低学年の部：無冠の最狂軍団、高学年の部：フクチーバルセロナ



↑観客たちの声援を受けながら、一進一退の迫力ある攻防を繰り広げた選手たち。

↓和気あいあいとした雰囲気の中、食進会のサポートを受けながら料理を実習。



**平成26年度 男性料理教室
メンズキッチンで腕によりをかけて**

食進会主催の「男性料理教室」が1月から2月にかけて、町内3か所の保健センターで開催されました。参加した29人の中には普段台所に立つことがない人もいましたが、食進会の指導のもと、「サバのミルク煮込み」など13品を調理。今回初めて参加した大井重幸さん(金田)は、「サポートのおかげでうまくできました。家でも作ってみたいです」と、意欲的に語りました。

↓シンポジウムではドイツと福智の状況を比較しながら、認知症対策に向けて多様な意見を交わしました。



**第7回 福智町住民福祉講座
認知症と向き合える地域に**

町と社会福祉協議会共催の住民福祉講座「認知症の人を支えるために」が、2月15日に地域交流センターで行われました。第1部では九州大学大学院教授の清原裕さんが「認知症は予防できる!」と題した講演で、運動や食事の見直しなどで認知症が予防できることを熱弁。第2部では、認知症対策の先進地であるドイツの医療・福祉関係者4人と嶋野勝町長、中野雅浩社会福祉協議会事務局長がシンポジウムで意見を交換。これからの社会では地域ぐるみでの予防対策が重要であると、約400人の来場者も含めて再認識しました。

**贈るものはチョコではなく“ちょこ”
上野焼特製バレンタイン“ちょこ”**

2月1日から14日までの間、上野焼陶芸館で「上野焼バレンタイン“ちょこ”」が販売されました。7年前から始まったこの企画に、今回は11窯元がハート型や干支の羊などをあしらった特製のお猪口440点を出品。猪口を納める博多織のきんちゃくや久留米餅のハンカチも販売され、来場者はいつもと“ちょこ”と違う贈り物を、笑顔を浮かべながら買い求めていました。



↑贈る相手を思いながら、独創性あふれるおちょこをじっくり品定めする来場者。

↓身ぶり手ぶりを交え、宇宙についてユーモアたっぷりに講演する阪本成一さん。



**市場小「感動と夢の実現を目指した講演会」
宇宙への関心通じチャレンジ精神育む**

2月6日に市場小で、国立天文台チリ観測所教授の阪本成一さんを招いた講演会が開かれました。阪本さんはJAXA在籍時に深く関わった小惑星探査機「はやぶさ」プロジェクトや、宇宙の研究に挑み続ける科学者について紹介。「最初から諦めず、成功に向けて何事にも挑戦し続けることが大事」と、チャレンジすることの大切さを参加した児童や保護者に訴えました。